
わたしの中の一番

早水香里奈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

わたしの中の一番

【Nコード】

N2997E

【作者名】

早水香里奈

【あらすじ】

恋に全く無縁の天宮凜^{あまみやりん}。そんな彼女には幼なじみの林翔^{はやしかける}がいるが、全然好きにはなれない。そんなとき凜はふて学校に行くとき寄り道が急にしたくなる。そして？

第1話予感

天宮凜は恋に全くといていいほど、縁がない。

今日も凜は恋探しの旅にでる。

結果はいつも同じ…でもあきらめない。そうしなければ、恋なんてできるわけがないと思った。

舞台は高校。

凜の朝からすべては始まる。

風が少し強い…そう感じながら、凜は自転車を漕いだ。風になびく髪は美しかった。商店街を一気に突き抜ける。途中、人にぶつかりそうになった。そういえば、今日の朝何も食べてない……どうりでお腹が…、凜は近くのコンビニに入った。

うわ…最悪、凜は思った。なぜなら、幼なじみの林翔がいたからだ。翔はよく凜になにかとつかつかつてくる人だ。凜は知らないふりをした。目をあわさずにパンが売っているところまでいった。適当にパンを取る。そして飲み物を買う。よし、順調だ、凜はそう思いながら、レジに向かった。

「よお。おはよ。朝からコンビニ？」

凜のテンションは一気に下がる。

「そうだけど…何の用？」

凜は少し怒ったような言い方で話した。

「何？キレてんの？」

「キレてない。わたし急いでるから。」

「おいおい、キレてるじゃん。朝コンビニひやめとけよ。肌荒れるし、体にも悪いぜ。」

翔の言葉を見無視してレジに並ぶ。

毎日朝コンビニのヤツに言われたくない、と強く思った。翔はそんな凜の様子を見かねたのか、凜に近づいてきた。

「おいっ！無視はねえだろ。人が心配してやってんのによ。」

「…うるさいな…翔にはそんなコト言われたくないっつーの。大して心配してないくせに。」

そう言うと凜はコンビニから出た。

「なんだと…あんの女あ〜」

翔はどうしようもない怒りに体中が震えた。凜の後を追う。

凜は自転車に乗ってもうどこかへきえていた。一人残された翔。アイツ、どんだけ自転車漕ぐの速いんだよ……翔は改めてそう思った。

翔から解放された凜は、少し気分がのっついていて、鼻歌を歌っていた。

ちょっと寄り道してみようかな…

急にそう思った。次の角をいつもなら、左へ行くけど、今日は右へ行ってみることにした。初めて通る道だった。

なんだか不思議な気持ちだ、凜はそう感じた。周りを見渡したら、全てが草だ。

この街にこんなところがあったんだ…凜は目を丸くして、辺りを見回した。誰も居ないみたいだ…。

凜は時計を見た。

ヤバイ！こんな時間！凜はペダルに思い切り力をこめた。その時だった。

「君、誰？」

突然の声に凜は驚いてバランスを失った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2997e/>

わたしの中の一番

2011年1月19日13時04分発行